

沼名前神社能舞台 鏡板復原 お披露目会

日 時：2025年5月6日（火・休）9：30～12：00

場 所：沼名前神社能舞台 福山市鞆町 1225

主 催：沼名前神社

協 力：沼名前神社祭事運営員会

後 援：福山文化連盟 福山喜多会

◆鏡板除幕式・・・・・・・・・・9時30分開始

挨拶・除幕・鏡板説明

◆記念行事 祝賀能・・・・・・・・・・10時30分開演

【能 組】

舞囃子「高砂」 シテ 大島衣恵
笛 斉藤 敦
小鼓 成田達志
大鼓 白坂保行
太鼓 大島紀恵
地謡 狩野了一 金子敬一郎 金子龍晟
藤井敏博 森直樹 園尾英樹 高山公一郎

連 吟「鞆浦」 荒木七海 原田佐和子 原田可南子
小川美佐江 飯島理英 富岡真弓 矢吹静江
加藤千絵 田中智子 岩本さよ子 ナンシー・ロス
堀川由美江 大島文恵

半 能「八島」 シテ 大島輝久
ワキ 岡 充
笛 斉藤 敦
小鼓 成田達志
大鼓 白坂保行
地謡 狩野了一 金子敬一郎 金子龍晟
原田憲太郎 森直樹 吉田道弘
後見 大島衣恵

◆餅まき・・・・・・・・・・11時30分開始

沼名前神社能舞台と鏡板

国指定重要文化財 昭和 28 年(1953 年) 11 月 14 日指定

この能舞台はもと伏見城内に所在した組立式の舞台を福山初代藩主水野勝成が伏見櫓等とともに拝領し、福山城に移したと伝えられている。その後、万治年間三代勝貞の時、当社に寄進し、元文 3 年(1738 年) 現在のような固定式としたものである。17 世紀以前の古い能舞台は、全国に 4 棟しか現存していない。

舞台の随所に組立式の様式を留め、各部材に番号・符号を付け組立ての便をはかり、屋根は框【かこい】組み(パネル式)、仕口はほぞ差しとしている。

桃山時代の仮設的な初期能舞台の特徴をもつ貴重なものであったが、鏡板は松と竹を描く当初のものに剥脱【はくだつ】がみられ、年と共に損傷が激しく、改修が文化庁の活用補助事業に採択され、太閤も見たといわれる舞台が往時の姿を取り戻した。

鏡板の絵(縦 1・9メートル、横 5・2メートル)は桃山時代に狩野派の絵師が描いたと伝わるが、ほぼ消えて見えなくなっていた。20～21年に行われた屋根のふき替え工事の際、文化財建造物保存技術協会(東京)などが光を当てた筆跡調査や過去の写真、資料を基に分析し、復元見取り図を作成。神社が文化庁に申請し、復元を目指していた。

一般的な舞台では鏡板に向かって右側面に描かれている竹を、松と一緒に鏡板内に配した珍しい構図。市文化振興課の榊拓敏文化財担当課長は「舞台の定型が定まる以前の意匠と思われ、能を愛好した秀吉の着想が現れている可能性がある」と指摘する。

国重文のため上描きはできず、新しい板に岩絵の具やにかわといった当時の材料、技法を用いて模写した。